

施設と子ども

恵泉第一幼稚園の施設

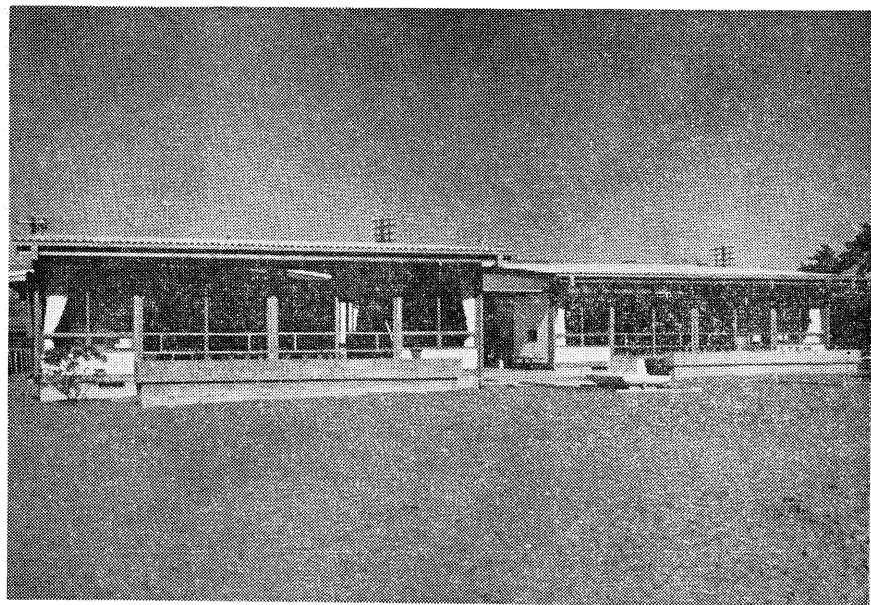
東海道線茅ヶ崎駅から十五分ぐらい歩いて、恵泉幼稚園をお尋ねし、園長の高橋先生から園の施設についてお話を伺いました。

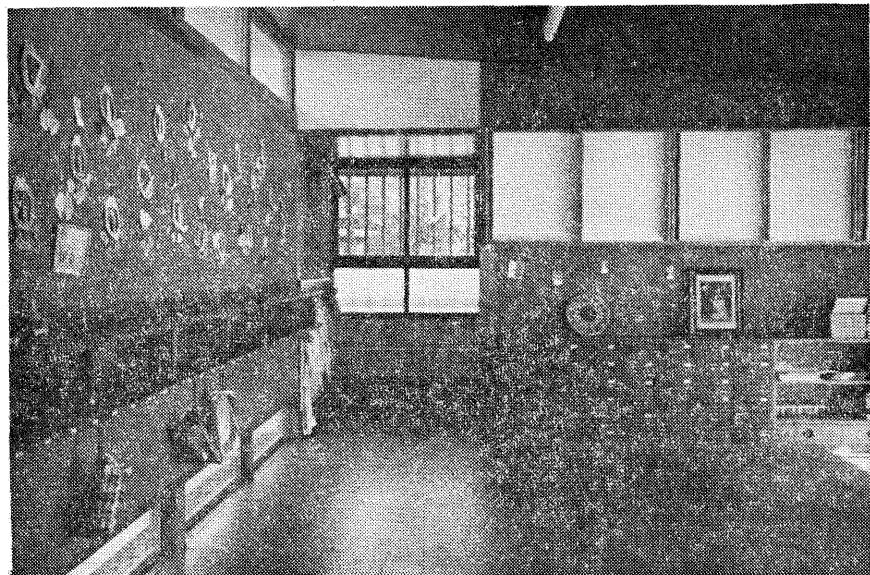
この幼稚園は一九六〇年に、専門家の田中正美さんと、小川信子さんによつて建てられました。

分散的配置と保育室

「この建物の変わったところは、今までの幼稚園のように、学校式に一棟に教室がずらりと並んでいないで、一棟に一教室の分散的配置という点です」と高橋先生はまず強調されました。この幼稚園は、二つの保育室と遊戯室、そして職員室など管理系統の室が分散的に配置され、各室は廊下で連絡されています。

渡り廊下は屋根だけで壁がないので屋外のような感じです。職員





室からは、ガラス越しに各室での園児の様子がよく見通されます。

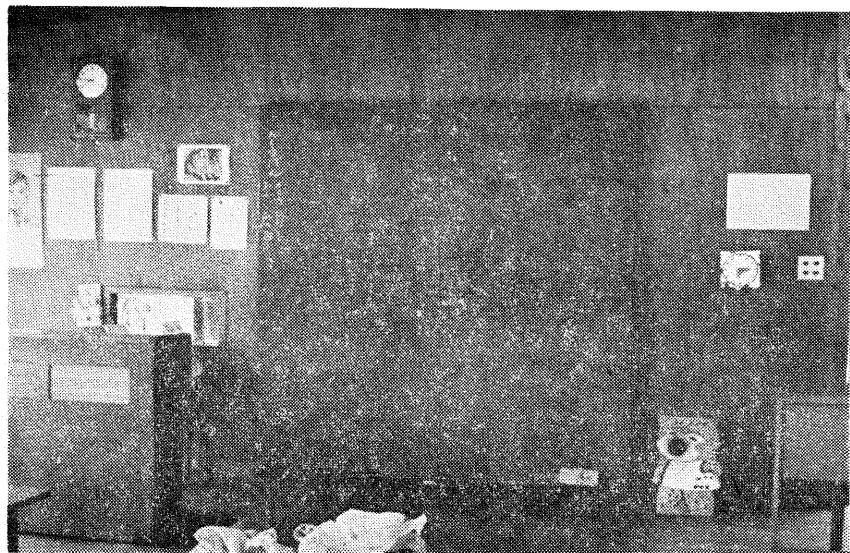
○分散的配置の理由

個々の幼児は個人差はあるが、年令別には分類する必要があり、組が編成されます。各組には、教育上隣りとの交渉のない環境、組意識のはつきりする場、独立感のある環境が必要です。このように考えてこの配置を思いついたとのことです。また独立感と同時に解放的な感じ、「へや」という区割された感じの少ないへやにしたいと思い、周囲をガラス張りにしました。日本人はどうも「とじこもり主義」になりがちなので、明るく、解放的な場を与えることを考えました。先生のお話通り、一見いたいへん明るい感じがしました。

各保育室には、一間四方の大きな黒板が床まであり、下の方は子どもたちが自由に使えるようになっています。保育室の南隅の空間は、周囲を囲まれて独立した感じがして、ここ遊びに最適に思われました。

屋外遊戯場

園舎は、真ん中の屋外遊戯場を中心にしてその周囲に、保育室、遊戯室、職員室などが置かれています。四五坪の屋外遊戯場は一面芝生で、子どもたちは上靴のままここへ出られます。芝生の片隅にはタイル張りのブール、シャワーがあります。子どもたちは、自由遊



便所、洗面所

びのときは、スベリ台、砂場、ブランコ、回転塔などのある運動場で遊び、ここは主として保育の時に使われるのだそうです。ここは、子どもの健康上、なるべく屋外の生活を多くしたいと考えられて造られたとのことです。この考え方から、各保育室にも南側にベランダが附設され、子どもたちは充分に日光欲をしながらリズム遊びなどを楽しむことができます。

幼児の教育は、生活指導を中心に行なわなければなりません。そのため、保育室内に便所、洗面所を置きました。これによつて、常に排便、排尿、手洗いなどの生活指導を徹底することができます。

日本では昔から、便所は汚ない所と考えられてきましたが、この考え方をなくすために水洗にして（淨化槽）、いつも清潔にされています。

便器は、高橋先生が医者として研究された結果、健康上「かがみ式」よりすぐれていて、しかも使いやすい「腰掛式」を採用されたということです。（自然な姿でらくに用をたすことができ、身体内部の諸器官の健康上たいへん良いとのことです。）全部腰掛式にするこについて、当時父兄からも、先生方からも、「日本の今までの習慣上、どうしてもできない子どもができたらどうしますか」などと反対され、「園内に一つだけでも、かがみ式のものをつくった

ら」と主張されたとのことです、子どもの頃から健康な良い習慣をつけるためには、徹底した方がよい、もしどうしてもだめだったそのときまた考え方直すと押し切られたとのことです。やってみると、子どもは案じたよりも新しいことに早く順応しやすく、困ることは起きませんでした。今では先生がたも喜んでおられるとのことです。

調理室

普通一般の栄養のための給食ではなく、教育のための給食を実施するために、遊戯室の隣りに調理室を設けました。週一回、完全給食を実施し、食事指導はこのときに主として行なわれます。よくかむこと、行儀よく食べること、スプーン、フォークの持ちかた、きらいな物でも食べられるようなど。主食はパンが多いのですが、御飯のときもあり、どちらの場合も、スプーンとフォークを用いています（お弁当のときは、箸の子も、スプーンの子もまちまちですが）。調理はおかあさんがたが五人ずつ当番でなさり、栄養士のかたが、時折献立指導に来られます。

応接室兼観察室

ふだんは応接セットの置かれている応接室は、問題児の相談などがある場合観察室に変わります。この場合は、応接セットを外に出



し、遊具をこのへやにいれて、問題児をここで遊ばせ、隣りの職員室から観察します。この室と職員室の境の壁にハーフミラーが取りつけられています。

保健室兼園長室

応接室の隣りは、保健室兼園長室です。これは高橋先生が医者であるため考えだされたとのことです。

足洗い場、水飲み場

玄関と、中庭の二ヶ所にある足洗い場、水飲み場は、スマートで、いかにも足が洗いやさそうに思えました。二ヶ所とも両側に蛇口があり、中庭と廊下の両側から使用できて便利です。

玄 関

園児の出入は二つの保育室の間から、教師や、おとなは応接室の隣りから、と分けられています。

母親のための施設

ここの中泉第一幼稚園は四、五才児のため（主として一年保育に重点）、少し離れたところにある恵泉第二幼稚園は三、四才児（特に三才児からの三年保育に重点）のために建てられています。両者

の母親教育のための施設が第二幼稚園の中に最近建てられ、現在毎週一と二日、午前中三時間、多くの母親がここで勉強されています。

増築の計画

この園は、八十人、二クラスの予定で建てられました。しかしながら非常に希望者が多く百三十人、四クラス（四才児二クラス、五才児二クラス）の園児がいます。それで当初の目標通りにこの園を使うことがむずかしくなり、二つの保育室の他に保健室と遊戯室を保育室にあてています（便所を増設）。調理室も百三十人のためにはせまくなりましたが、今保育室増築の計画も立てられています。

この辺は海岸のためか、運動場は一面の砂地、折悪しく雨のため、この大きな砂場や、気持ちのよい芝生の上で遊ぶ子どもたちの姿がみられなくて残念でしたが、四日も降り続く雨にも負けず、子どもたちは楽しそうに遊んでいました。

× × × × ×

× × × × ×